

## 中間管理職対象のハラスメント研修を 2回に渡って実施しました

11月12日、19日の2回に渡って、中間管理職を対象としたハラスメント研修会が開催されました。



前回同様、参加型の研修会で、普段話すことのない職員との交流の機会ともなりました。楽しい雰囲気の中、活発な議論が行われました。

参加者の皆様からは、以下のような感想が寄せられています。

<印象に残った点・学んだ点>

・職場におけるハラスメントにより、された本人はもとよりした本人、職場と全において大変な悪影響を及ぼす。

・「価値観」は時代とともに変わっていく。20年前の指導方法は、今は通用しない。



<管理職として学んだ内容を明日からどのように生かすか>

・日々スタッフと接する中で、アンテナを張って少しの気付きを大切にしていこうと思う。

・性差、年齢など関係なく、誰に対しても一人の人間として接することを心がける。

・自分で訴えることができない利用者さんにもハラスメントを受けていることがあるので、それをどう守ってあげるかが課題です。

・お互いに注意しあえる職場にするためにコミュニケーションを積極的にとり、助言に対して耳を傾けていきたい。

今後は、一般職員の皆さんに向けた研修会を行なっていきます。

ご協力、よろしくお願いいたします。

### ～コラム～

明治の文豪幸田露伴の『努力論』の中に「幸福三説」というのがあります。福には「惜福」「分福」「植福」の3つがあり、「惜福」とは、自分に与えられた福を取り尽くし、使い尽くしてしまわず、天に預けておくことで、その心掛けが、また新たな福に出会うと説いています。幸福である人を見ると多くが「惜福」に努めている人だと露伴は述べています。

「分福」は、幸福を人に分け与えることで、周囲を幸福にすることが自分の幸福にもつながると説いています。

「植福」は、将来の自分や、将来に生きる人のために福の種を蒔いておくことだと言います。将来の人のために環境を整えておくことも「植福」のひとつかも知れません。

私たちの職場も、それぞれの福を分かち合えるような場所に変えていきたいですね。

かわればわかる、わかればわかる。 (蒔田)